

龍谷大学 Ryukoku University
Center of
Educational Development

大学教育開発
センター通信

2010年度

03

通算26号



 龍谷大学
Ryukoku University

大学教育開発センター | 612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 TEL 075-645-2163 FAX 075-645-2100 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日：2011年3月31日 編集・発行：龍谷大学 大学教育開発センター

Contents 2011, Number 03

2010年度FDサロン開催報告 03

「和田公人先生のご講演を聞いて
eラーニングは学校に通えない人たちのためにある
—新しい学校作りへのチャレンジ」

李 洙任 (経営学部教授)

2010年度龍谷大学FDフォーラム開催報告 04

「龍谷大学独自の初年次教育を構築するための前提」
谷 直樹 (経済学部准教授)
「FDフォーラムに参加して」 近藤 久雄 (法学部教授)
「龍谷大学における『初年次教育』の必要性について」
内藤 多恵 (REC事務部(京都)課長)

大学院FD活動紹介 06

「経営学研究科におけるFDの取り組みについて」
細川 孝 (経営学研究科教務主任)
「国際文化学研究科のFD活動の現状と課題」
鈴木 滋 (国際文化学研究科教務主任)

学部FD活動紹介 08

「経済学部のFD活動」 伊達 浩憲 (経済学部教務主任)
「短期大学部におけるFD活動の紹介」
阪口 春彦 (短期大学部FD委員会副委員長)

2010年度第7回FD報告会 10

(第1回法学部FD報告会) 開催報告(2010年11月24日開催)

「法学部における小中規模講義の試み
～ブリッジセミナー法律学・アドヴァンスト司法セミナー～」
牛尾 洋也 (法学部教授)

文部科学省戦略的大学支援事業活動報告 11

「京都FD開発推進センター」の活動について
林 久夫 (理工学部教授)

2010年度大学教育開発センター活動報告 12



2010年度

FDサロン 開催報告



講演テーマ

失敗から学ぶeラーニング——^{やしま}八洲学園大学の事例から

日時 2010年12月3日(金)
17:30-19:30

場所 深草学舎紫英館2階第1共同研究室

主催 大学教育開発センター

共催 2010年度学部FD自己応募研究プロジェクト
「本学のeラーニングの普及と革新」

研究代表者 ^{リー スーイム} 李 洙任 経営学部、教授
共同研究者 石原賢樹 情報メディアセンター
井ノ上智啓 情報メディアセンター
木村 優 情報メディアセンター
辻川淳一 情報メディアセンター
樋口三郎 理工学部・講師
森 雅一 情報メディアセンター

講師 ^{わだ ひろひと} 和田 公人氏
^{やしま} (八洲学園大学理事長)

講演者プロフィール

- 1982年 立命館大学経営学部卒業後、りそな銀行勤務を経て、学校法人八洲学園に奉職。
- 1997年 八洲学園高等学校(通信制)の東京進出を担当。1年目から1000名以上の入学者を集め、業界の注目を集める。
- 2000年 日本初の合宿型通信制高校、八洲学園国際高等学校を沖縄に開校。初代校長に就任。
- 2003年 桜美林大学大学院大学アドミニストレーションコースにて大学経営を学ぶ(修士)。
- 2004年 日本初のeラーニング大学、八洲学園大学を開学。(株)デジタル・ナレッジ・ユニバーシティラーニングを設立し、取締役に就任。
- 2009年 (株)SOBAエデュケーションを設立し、取締役に就任。
- 2010年 学校運営機構(株)を設立し、取締役に就任。

著書:『失敗から学ぶeラーニング』オーム社刊(2004/05)

「和田公人先生のご講演を聞いて eラーニングは学校に通えない人たちのためにある ——新しい学校作りへのチャレンジ」

^{リー スーイム} 李 洙任 (経営学部教授)

eラーニングを賞賛する本が目立つ中、和田先生はともすれば後ろ向きのタイトルにも見える『失敗から学ぶ eラーニング』というご著書を刊行されています。総合情報棟で本学のシステム管理を担っている職員も参加し、約20名の参加者が和田先生のご講演に熱心に耳を傾けていました。和田先生は、サイバー大学のイメージにぴったりのポニーテールの髪型がとてもよく似合う自由人風の学校経営者でした。

eラーニングが真に学習者の支援に役立つように、ユーザー側から見た理想のeラーニング環境とは何かを解説され、私たちが狭義に捉えがちなeラーニングの定義を再考できるよい機会となりました。学校法人八洲学園大学は、2004年に開学した通信制大学で、日本で初めて、インターネットを利用するの学位や国家資格の取得を実現した大学です。人間性豊かなeラーニングを推進することにより、個人や社会の学習の課題を発見・解決し、新たな道を拓くことのできる資質・能力を養い、高め

ることを目的とした大学の特徴、カリキュラム、教授法などの説明を中心に新しいタイプの学校作りが紹介されました。

お話の中で和田先生の最も説得力あるお言葉は、「eラーニングは学校に通えない人たちのためにある」というご発言でした。これを逆説的に考えれば、「学生は学校に通い、教員は学校で授業を行う、そして授業は学校で行われるもの」という考えがもはや古くなりつつあるとも考えられます。今日では授業料、生活費を稼ぐために、アルバイトに奔走するため授業を欠席しがちの学生、授業に出席していても授業についていけない学生、座っていても心あらずの学生、そして「心の病」で欠席が続く学生など、学生の多様性が顕在化しつつあります。汎用型の教育ではもはや通用しなくなった現実を目を向けると、eラーニングの効用が生きてきます。「学校に通えない人たちのためのeラーニング」は龍谷大学にも適用できるコンセプトであると思いました。



2010年度 龍谷大学FDフォーラム開催報告

テーマ

初年次教育の課題

日時 **2010年12月22日(水) 14:00-17:00**

場所 龍谷大学深草学舎21号館4階402教室

プログラム

第1部:基調講演「実践的に見る現代大学生の特徴と初年次教育への接続」

溝上 慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

第2部:パネルディスカッション

パネリスト 溝上 慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

谷口 哲也氏(河合塾教育研究開発本部教育研究部統括チーフ)

テーマ:「初年次教育の事例と特色」

横山 宏氏(大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科准教授)

テーマ:「『若者とIT』とそれをふまえたICT教育」

須賀英道(龍谷大学保健管理センター長)テーマ:「これからの健康教育」

コーディネーター 中村 博幸氏(京都文教大学臨床心理学部教授)

司 会 谷 直樹(龍谷大学経済学部准教授)



龍谷大学独自の初年次教育を構築するための前提

谷 直樹 (経済学部准教授)

現在の学生の知・情・意の機微を、我々教職員はどれほど理解しているでしょうか？我々が元・学生であったが故に、自身の経験からの類推で事足りてはいないでしょうか？大学がユニバーサル・アクセス型に移行した時代背景下では、そうした類推が的をはずす蓋然性は高くなります。今回のフォーラムの趣旨は、初年次の学生が人間としてどのような発達段階にあり、現在の社会状況下で、いかなる特徴を有しているかについて最新の知見を学ぶというものです。建学の精神、教育理念を教育実践の中で実現するために、こうした知識は前提となると考えた次第です。我々が相手にしているのは、知識の移植、プログラムのインストールを待っている機械ではなく、児童期に形成された価値観の断絶局面を迎えている青年期の人間です。他者との関わりの中での試行錯誤を経て価値観の組み替えが起こる不安定な局面で、我々は初年次教育というプログラムを走らせるのです。知情意への繊細な全体的配慮が必要な作業です。フォーラムのDVDをご覧いただき、新たな授業開設の議論を始めた学部があると聞き、嬉しく思います。

FDフォーラムに参加して

近藤 久雄 (法学部教授)

昨年12月22日、第6回「龍谷大学FDフォーラム」が開催されました。テーマは「初年次教育の課題」という龍谷大学がいま真剣に取り組まねばならない問題を取り上げていました。基調講演は京都大学の溝上慎一准教授が「実践的に見る現代大学生の特徴と初年次教育への接続」という演題で、現代学生の分析とアイデンティティー形成の問題について興味深い講演を行われました。

基調講演に続くパネルディスカッションでは、本学の谷直樹准教授の司会のもと、河合塾の谷口哲也氏、大阪電気通信大学の横山宏准教授、須賀英道龍谷大学保健管理センター長がそれぞれ報告を行い、コーディネーターの中村博幸京都文教大学教授が自らの実践を踏まえてまとめられていました。

内容的には、大きく二つの問題が語られたように思います。まず最初は、初年次教育の目的である主体的に学びに参加できる学生をどう育てるか、つまり大学生としての自己形成をいかにして支援するかについての検討と実践例の紹介です。二番目は、大学が制度として学生の自己形成を支援する体制や制度をどのように設計すべきか、ということであったように思います。これらの問題は龍谷大学が求められている喫緊の課題でもあったと思います。

龍谷大学における『初年次教育』の必要性について 内藤 多恵 (REC事務部(京都)課長)

テーマ「初年次教育の課題」に興味を惹かれて、『2010年度龍谷大学FDフォーラム』に参加しました。基調講演講師の溝上慎一先生は、京都大学高等教育研究開発センター准教授です。溝上先生は、センターで、大学入学後、早い時期の学習態度や学生生活の過ごし方が、その後のキャリア形成に影響を与えることについて、2つのライフ「日常生活と人生」の関係を研究されています。授業外学習・読書、IT・ゲーム・マンガ、友人・クラブサークル等を活発にこなす学生は、自分には将来の見通し(人生)があると感じていて、日常生活の意味をある程度理解した上で行動(日常生活)しており、逆に全てに消極的、もしくは興味を持たない学生は、自分には将来の見通しが無いと感じています。初年次の傾向は年次が進行してもほぼ変わりません。このことから、初年次教育によって、学習態度や学生生活の過ごし方を身につけることが如何に大切であるかがわかりました。また、この報告を聞き、「自分の将来」を意識している学生が、本学にどれほどいるのかが気になりました。本学では、まず「将来」とは何かを考える機会を提供する必要があるのではないのでしょうか。また、同時に勉強をきちんと自分のものにできるよう、学習場面で日々課題を与え、学生同士コミュニケーションを取ることの大切さも理解させなければなりません。国公立大学も積極的に実施している「初年次教育」ですが、本学には本学学生に必要な「初年次教育」があることを改めて認識しました。

大学院 FD活動 紹介



経営学研究科における FDの取り組みについて

細川 孝（経営学研究科教務主任）

経営学研究科では、これまで研究科の付置機関である京都産業学センターの京都産業学研究会をFDとして位置づけてきました。これは、京都企業を学び、京都企業から学ぶことが、(本研究科の特色の一つである)社会人の再教育にとって、有益であると考えからです。本年度(2010年度)も学外の方をお招きするなどして、定期的に研究会を開催してきました。

以上のこととは別に、本年度、研究科として新たな取り組みを始めました。それは、留学生を対象とした日本語論文入門の科目に関するものです。7月28日にFD研修会を開催し、非常勤講師の塚田亮太氏に「アカデミック・ライティングIを担当してー経営学教育とのかかわりからー」というテーマでお話しいただきました。受講した2名の大学院生も参加し、有意義な研修会となりました。この研修会に至る経緯は次のようです。

経営学研究科では、新カリキュラム実施にともなって、アカデミック・ライティングIおよびII(各2単位)を開設しました。これは、ビジネス・コースと日中連携ビジネス・コースに入学する留学生を対象にしています。Iは「日本語論文入門」、IIは「経営学論文入門」という位置づけです。

新カリキュラムでは、(従来の2コース制から)5コース制にコース再編されました。よりきめ細かな研究指導を行う必要性が共通認識となり、その一つの具体的な取り組みとしてアカデミック・ライティングが新たに開講されたのです。この1年間の実践を通じて、課題も見えてきました。それは端的にいうと、アカデミック・ライティングの成果を、研究科全体に共有するということです。

そのようなことから、2011年度には、教授法の開発(確立)と教材の開発を課題にして、FDを行います。これは共同研究という形をとっていますが、研究科執行部が責任をもってすすめるものです。さしあたりは研究科に限ってのものですが、他研究科の教育にも貢献できる可能性があると考えています。来年の今頃は、目に見える形で共同研究の成果をご報告したいものです。

(2011年2月16日記)

国際文化学研究科の FD活動の現状と課題

鈴木 滋（国際文化学研究科教務主任）

国際文化学研究科では2011年度から新カリキュラムを開始します。そこで2009年度から2010年度にかけては、研究科では、さまざまなカリキュラム検討の会合をもちました。ここでは、今回のカリキュラム改革をとおしてFDにつながる研究科の取組みを紹介したいと思います。

われわれの研究科は、学際的な研究を中心とするために多様な分野の教員を含むことが大きな特徴となっており、これまで専攻などによる研究科の細分化をしない形で運営されてきました。しかし、それでは大学院生が体系的な履修をしにくいという点に、授業にも教員間の連携が生じにくくなっていました。そこで今回の改革では、専修科目の科目群を4つにわけて、必修科目とも連動させて、大学院生がより体系的な履修をできるとともに、教員間でも連携した運営ができるようにしました。

科目群は、「エリアスタディーズ」「グローバルスタディーズ」「日本研究」「言語・教育」の4つとし、学部の4つのコースとゆるやかな対応があります。それぞれの科目群には、選択必修科目の「国際文化学研究A～D」を用意し、科目群ごとに方法論や文献講読の基本などを習得する科目としています。これらの科目は、科目群内の教員でチェーンレクチャーを行ったり、年度ごとに交代することとして、教員間で内容の共通性を保つように調整をすることにしました。また、専修科目についても、専門分野の近い教員同士で共同運営をすることも取り入れています。また、科目群を越えた教員間で、毎年特定のテーマを扱うチェーンレクチャーを設定し、初年度は「日本語と日本文化」というタイトルで特殊講義を行い、教員間の共同研究とも連携ができるようにしました。

こうしたカリキュラム改革の作業によって、大学院教育をめぐる根本的な議論を積み重ねてきたことは、FDとしての効果の高いプロセスであったと言えます。科目群をあらたにつくるにあたっては、研究科の現状や要望を教員や大学院生にも聞くとともに、学部のコース会議もつかって意見の聴取や調整をはかりました。今回の改革の中心となったカリキュラム委員会は、今後の研究科では科目群間の調整をはかるために恒常的な組織としての運営が予定されています。これらの新カリキュラムは、大学院生にとってわかりやすい科目間の関連をもたらすと同時に、これからの運営のさまざまな面で教員相互による効果的な意見交換につながることを期待され、新カリキュラムをとおして、教員各自でも大学院教育を見直すことが課題となります。

学部 FD活動 紹介



経済学部のFD活動

伊達 浩憲 (経済学部教務主任)

今年度の「龍谷GP」に採択された経済学部の「海外連携ミニ講義交換プロジェクト～海外連携、経済学e-learningプログラムの開発」の背景や内容を紹介いたします。

経済学部ではこれまで、海外6カ国・8大学との間で独自に培ってきた協力関係をベースに、「国際経済学」、「国際協力論」、「国際学」において、これらの大学と連携して、英語による出張講義や共同フィールドワークなどを実践してきました。さらにこれらをより綿密な国際連携教育に発展させるため、2004年度の学部プロジェクトとして「ネットワークやeラーニング基盤を活用したサイバー国際経済学教育」を推進し、現地教授陣や学生と対話・交流し、グローバルな経済動向や現地での考え方を直接学ぶことのできる海外遠隔交換講義の実験を実施・本格運用に至っています。

すでにオーストラリアのカーティン工科大学が発信する「Weekly Economics」(各15分程度)12編をリリースし、実際に「経済英語」や「基礎演習」などで授業教材として利用に供しています。また試行的におこなった

「Ask(簡易質問・応答)」では、5つのコンテンツを経済学部生が作成し、多言語化提供(日本語、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の5カ国語)を実現しました。

今回の「龍谷GP」では、とりわけ国際経済学科の学生をターゲットとして、よりいっそう「生きた経済学教育」のコンテンツとなるよう開発を進めていきます。海外専門家の講義や談話を時間差なく聴くことができ、現地の学生達に気軽に直接質問できる、というリアルタイムな相互対話環境を、eラーニング・システムを用いることにより実現することを目標にしています。

教員と学生が一体となってこれに関わることで、言語の壁を越え、遠隔教育の本来の特性(コミュニケーションの双方向性、多面的な講義スタイル、現場との緊密性、場所を越えた即時性)を活かした新たな遠隔教育を確立し、グローバルなレベルでの問題解決能力を有する人材の輩出を目標としています。またコンテンツ作成、システム開発に学生が参画することでアクティブラーニングの教材としても活用し、主体的に問題解決に取り組む人材の育成にも寄与したいと考えています。

短期大学部におけるFD活動の紹介

阪口 春彦（短期大学部FD委員会副委員長）

短期大学部では、次のFD活動を行っています。

1 FDに関する協議等

授業・カリキュラム・各種実習等について、FD委員会、学科会議、コース会議等で協議し、協議結果を踏まえ、各担当者により改善を図っています。

2 研修会等の開催

2010年度に開催した研修会等は次のとおりです。

〈FD研修会〉

開催日:10月1日

テーマ:「体験学習プログラムのポイント－コーオプ教育への応用」

講師:中根智子氏(立命館大学共通教育推進機構サービスラーニング担当講師)

〈FD報告会〉

開催日:7月23日

テーマ:「社会福祉実習における事前事後指導について－利用者理解とその需要の把握および支援計画の作成－」

報告者:川崎昭博(龍谷大学短期大学部准教授)

〈第1回公開授業〉

開催日:11月18日

科目名(担当者):「英語Ⅱ」(大場智美 龍谷大学短期大学部講師)

〈第2回公開授業〉

開催日:11月26日

科目名(担当者):「仏教の思想」(玉木興慈 龍谷大学短期大学部准教授)

3 教育効果等の測定

教育上の効果と目標達成度を測定するため、①実習受け入れ先を対象とした実習に関するアンケート、②卒業年次生を対象としたカリキュラムアンケート、③卒業年次生を対象とした進路調査などを実施し、その結

果を教職員と共有すること等により教育改善に活用しています。

また、卒業要件科目平均点や卒業要件科目修得単位数の人数分布の資料などを教務課で作成し、年度ごとの学業成績の推移を把握できるようにしたり、本学部における教育の中でとくに重要な位置を占める実習教育については、実習終了後に実習反省会を開催し、実習受け入れ先の職員や学生の参加も得て、対面的な意見交換を行う場を設けたりしています。

さらに、教育の結果を測定するだけでなく、入学直後に入学動機アンケートを実施するとともに、6月にプレースメントテスト(日本語)を実施することにより、入学生の学力や学習意欲等について把握し、学生実態に合った教育を模索するとともに、教育効果を見極める基礎データとして活用しています。

なお、全学で実施されている「学生による授業アンケート」については、アンケート結果に対する教員からのコメントを集め、学生に公表しています。

4 GPに採択された3つのプログラムの継続

これまでに特色GP、現代GPに採択された3つのプログラムの内容を発展させながら事業を組織的に継続しています。

5 プロジェクト・チームによるFD活動の推進

短期大学部教職員から取り組むべきと提案された課題等についてプロジェクト・チームを発足させ、FD活動を推進することとしています。具体的には、「実習ハンドブック・実施ハンドブックの作成」、「実習・教育年報－卒業論題集－」、「導入教育用および実習事前指導用視聴覚教材作成」、「カリキュラムアンケートの実施」、「学修の指針」、「利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成」についてのFD、「おもちゃプロジェクト(短期プロジェクト)の実施」などのプロジェクト・チームを立ち上げて活動しています。

2010年度第7回FD報告会 (第1回法学部FD報告会) 開催報告(2010年11月24日開催)

「法学部における小中規模講義の試み ～ブリッジセミナー法律学・アドヴァンスト司法セミナー～」

牛尾 洋也 (法学部教授)

11月24日、大学教育開発センターと法学部FD委員会が共催して、第7回FD報告会を開催しました。法学部から多数の参加者を得て、活発な議論がなされました。

法学部では、2008年度カリキュラムの新編成にあたり、新たな学部プログラムとして「読み・考える・書く・話す」能力とプレゼンテーション能力の向上を目的として「ブリッジセミナー」を開講してきました。同時に、従来の一方方向の講義とは異なる双方方向の中規模専門科目教育として、新たに「アドヴァンスト司法セミナー」を5,6,7 Semesterに開講してきました。これら法学部における初年次教育から専門教育への橋渡科目と特色科目について、下記の科目担当者から報告を受け、FD報告会を開催しました。

「ブリッジセミナー法律学」については、2010年度の科目担当者である鈴木眞澄教授と河村尚志准教授から、「アドヴァンスト司法セミナー」については、2009年度の民法分野の担当者である私(牛尾)と2010年度の憲法分野の担当者である元山健教授、同刑法分野の担当者の石塚伸一教授からご報告をいただきました。

大学入学後、必ずしも専門科目の講義やゼミで扱う素材・文章を十分理解できず、表現することも困難な学生が少なくありません。また、従来の縦積みの専門

大講義科目だけでは、専門科目への疑問や引っかかりを解消できないまま、興味とモチベーションを失う学生も少なくありません。

ブリッジは、専門科目担当者であっても、講義内容や方法の専門性を抑制し、思い切って「読み・書き・話す」ことを意識して取り組む40名の中規模講義であり、アドバンスは、自分の専門を活かし、その中で、学生を活気づけ、積極的な意識を持ってもらうよう双方方向の講義を行う60名の中規模講義です。これらの講義の具体的構想と実施は、講義担当者に大きな負担を背負わせるものですが、この実験的なFD科目の経験を通じて、学生側では、大学教育を通じた新たな目覚めの経験となり、教員側では、現実の学生のレベルや要求と真摯に向き合うことで、より実践的な教育方法への改善のきっかけとなることが期待されます。

各科目担当者からは、その苦勞とともに新たな発見や改善点が指摘され、参加者からも活発な問題提起が行われました。FD科目として着実な成果を挙げていることが検証できました。今後もより積極的な取り組みを通じて、今後の法学部、および大学全体の新たな講義のあり方に対する問題提起となれば幸いです。

文部科学省戦略的 大学支援事業

「地域内大学連携によるFDの包括研究と 共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」 (京都FD開発推進センター)活動報告

「京都FD開発推進センター」の 活動について

林 久夫 (理工学部教授)

大学間で競争させ淘汰されるのを待つという政策を転換し、大学間で協力させ互いに切磋琢磨させるのが得策との判断からか、2008年度に文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業」が開始されました。表題の「京都FD開発推進センター」は、この事業に採択された「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」というプロジェクトを実施するため、2008年度に設置されたものです。大学コンソーシアム京都の活動を基礎に、仏教大学を代表校として本学を含む京都地域の18の大学・短期大学が連携し、京都地域の大学・短期大学のFD活動の充実と教育の質の向上を目的にしています。

「京都FD開発推進センター」の行う事業は大きく分けて3つあります。一つ目は「FDerの養成」です。大学によっては、「FDを実施したいのだが、それを指導するリーダーすなわちFDerが不足している」との声が聞かれます。それに応えるため、「京都FDer養成塾」と称して、各大学のFDに興味のある先生方を集めてFDのリーダーになるための教育訓練を実施しています。また、FDerが各大学で円滑にFD活動を進めていくためには、大学執行部がその重要性を認識する必要があるとの判断から、学長・副学長等の大学執行部を対象に「京都FD執行部塾」を開催しています。

二つ目の事業は、「FDのためのシステム開発」です。主としてICTを使ったFDの開発研究であり、これまでにe-ポートフォリオの調査研究、クリックを活用した授業の開発、テキストマイニングを利用した大学教員に対する系統的な意識調査などを実施してきました。

三つ目の事業は「新任教員合同研修プログラムの実施」と「FDハンドブックの作成」です。「新任教員研修を自校で実施したいのだが、諸般の事情で実施できない」と悩んでいる中小規模の大学を対象に、新任教員合同研修を提供しています。このプログラムは国立教育政策研究所の「基準枠組み」に準拠しており、汎用性の高いものです。また、研修会のテキストとして使用するため、「まんがFDハンドブック【新任教員編】」、「同【成績評価編】」を刊行し、大好評を得ました。

「京都FD開発推進センター」ではその他に、FDセミナー、海外FD研修、授業コンサルテーション、FDに関する質問に対する回答(FDQ&A)などの事業を実施しています。



「まんがFDハンドブック【新任教員編】、【成績評価編】」

2010年度 大学教育開発センター 活動報告

会 議

- 4月23日(金) 第1回大学教育開発センター会議
- 4月23日(金) 第1回学部FD会議
- 5月14日(金) 第2回学部FD会議
- 6月22日(火) 第1回大学院FD会議
- 6月25日(金) 第1回学部FD運営委員会
- 7月 9日(金) 第3回学部FD会議
- 7月13日(火) 第2回大学院FD会議
- 10月 5日(火) 第3回大学院FD会議
- 10月 5日(火) 第2回学部FD運営委員会
- 10月 8日(金) 第4回学部FD会議
- 10月29日(金) 第5回学部FD会議
- 11月 2日(火) 第4回大学院FD会議
- 11月 5日(金) 第6回学部FD会議
- 11月 5日(金) 第2回大学教育開発センター会議
- 12月 3日(金) 第7回学部FD会議
- 1月21日(金) 第8回学部FD会議
- 2月 2日(水) 第5回大学院FD会議
- 2月25日(金) 第3回学部FD運営委員会
- 2月25日(金) 第9回学部FD会議
- 3月 4日(金) 第6回大学院FD会議
- 3月 4日(金) 第3回大学教育開発センター会議
- 3月11日(金) 第10回学部FD会議

刊 行 物

- 7月 FD・教材等研究開発報告書
- 8月10日 大学教育開発センター通信第24号
- 2月15日 大学教育開発センター通信第25号
- 3月31日 大学教育開発センター通信第26号
- 3月31日 FDサロンレポート2010年度第1号
- (随時) 大学教育開発センターNews発行

事 業

- 4月1日・2日 教育職員新任者就任時研修会
- 5月27日～6月9日
2010年度第1学期「学生による学期半ばの
授業アンケート(試行)」
- 6月7日～6月11日
2010年度国際文化学部前期公開授業
- 6月16日 国際文化学部第10回FD研究会
- 7月8日～7月23日
2010年度第1学期「学生による学期末の授
業アンケート」
- 7月21日 2010年度第1回理工学部・理工学研究科
FD報告会
- 7月23日 2010年度短期大学部FD報告会
- 10月 7日 公開授業「行政法I」(鈴木真澄〈法学部〉)
- 10月25日～11月8日
2010年度第2学期「学生による学期半ばの
授業アンケート(試行)」
- 10月27日 2010年度第1回文学部FD研究会
- 10月27日 2010年度第1回経営学部FD報告会
- 11月 8日 公開授業「英語II(社会福祉学専門連携英語)」
(大場智美〈短期大学部〉)
- 11月24日 2010年度第2回文学部FD研究会
- 11月24日 2010年度第1回法学部FD報告会
- 11月26日 公開授業「仏教の思想」
(玉木興慈〈短期大学部〉)
- 12月 3日 2010年度第1回FDサロン
(講師:和田公人氏〈八洲学園大学理事長〉)
- 12月 8日 公開授業「広報論(マルチメディアとジャーナ
リズムB)」(築地達郎〈社会学部〉)
- 12月 9日 公開授業「ソーシャルワークの基盤と専門職」
(山邊朗子〈社会学部〉)
- 12月14日 公開授業「現象の数学B」(樋口三郎〈理工
学部〉)
- 12月15日 2010年度経済学部FD報告会
- 12月16日 2010年度第1回社会学部FD報告会
- 12月18日 2010年度国際文化学部後期公開授業
- 12月20日 公開授業「家族社会学」(渡辺めぐみ〈社会
学部〉)
- 12月22日 2010年度龍谷大学FDフォーラム
- 12月20日、1月6日～26日
2010年度第2学期「学生による学期末の
授業アンケート」